

前回委員会における需給・価格見通しと実績の対比

1. 前回の委員会（平成20年10月21日）で示した冬キャベツの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（2月中旬時点）	備考
冬キャベツ (11月～3月)	<p>【事務局資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 供給計画：対前年比100 主産地での好天による順調な生育及び長期天気予報により、<u>生育が前進化する可能性</u>。 <p>【生産出荷団体資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生育状況は、一部地域で害虫の発生があるが、概ね順調。 初出荷は前年並。10月下旬から4月にかけて<u>平年並</u>の安定した出荷。 <p>【委員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主産地の作付状況は、千葉、神奈川で前年並み、愛知はやや増。 特定の産地では、8月中下旬豪雨の影響があるが、全体を通して台風の上陸がなく、病虫害による被害がほとんど発生していないことから、<u>生育は全体的に概ね順調</u>。 <u>価格は</u>、生育状況が良好であるため<u>安値基調</u>。 	<p>(入荷量)</p> <p>主産地（関東、東海）における夏の局地的豪雨による定植の遅れ及び初期生育への影響（根の活着不良）並びに11月の低温に伴う生育の停滞により、11・12月は入荷量が平年（過去5か年平均をいう。以下同じ。）を大きく下回り、1月以降はこの影響による出荷の後ずれや好天により平年を上回ったものの、<u>全体としては平年を下回った</u>。（卸及び生産出荷団体からの聴取、11～2月中旬の東京都中央卸売市場入荷量の平年比：95）</p> <p>(価格)</p> <p>出荷期間の開始から年末にかけての入荷量が少なかったことから、価格は1月まで平年を大きく上回って推移し、2月以降は量的緩和の影響などにより平年を下回ったが、<u>全体としては平年を上回った</u>。（卸及び生産出荷団体からの聴取、11～2月中旬の東京都中央卸売市場卸売価格の平年比：113）</p>	

注1) 「前回委員会での見通し」については、前回委員会における事務局資料、生産出荷団体資料及び委員意見等をもとに作成。

注2) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1)

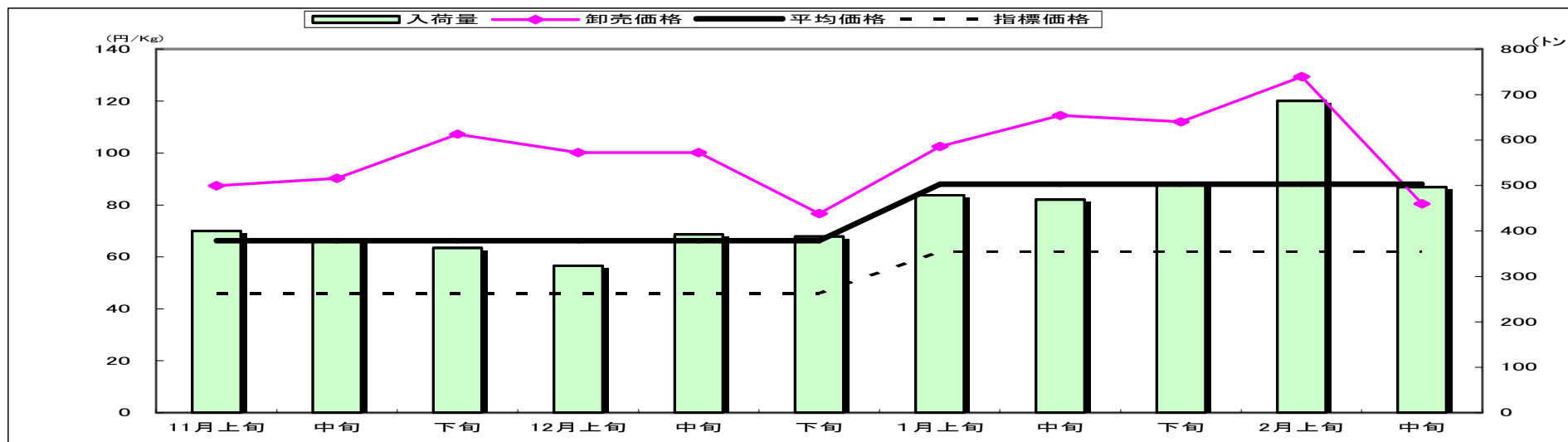
○20年産冬キャベツの入荷量と価格の平年比（平年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	85	91	82	69	83	75	122	95	111	114	122	—	95
価格	118	148	155	165	137	106	113	123	123	88	84	—	113

(注) 平年とは、平成15～19年の5か年の平均をいう。

(参考2)

○20年産冬キャベツの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場、平均価格は過去9か年。入荷量は各旬における平均日量）



2. 前回の委員会（平成 20 年 10 月 21 日）で示した秋冬だいこんの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（2月中旬時点）	備考
秋冬だいこん （10月～3月）	<p>【事務局資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・供給計画：対前年比 100 ・主産地での好天による順調な生育及び長期天気予報により、<u>生育が前進化する可能性</u>。 <p>【生産出荷団体資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生育状況は</u>、局地的な集中豪雨による播種期の遅れがあったものの、<u>全体的には平年並み</u>。 ・通常秋作は順調な生育のため、<u>平年以上の出荷を予想</u>。 <p>【委員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主産地の神奈川で一部長雨の影響があるものの、全体的には<u>生育は前年並み</u>。 ・<u>価格は</u>、玉太りもよいことから<u>安値基調</u>。 	<p>（入荷量）</p> <p>主産地（関東）における夏の局地的豪雨による病害の発生及び 11 月の低温に伴う生育の停滞により、特に 11・12 月は入荷量が平年（過去 5 か年平均をいう。以下同じ。）を大きく下回り、1 月以降はこの影響による出荷の後ずれや好天により平年を上回る水準まで回復したものの、<u>全体としては平年を下回った</u>。（卸及び生産出荷団体からの聴取、10～2月中旬の東京都中央卸売市場入荷量の平年比：96）</p> <p>（価格）</p> <p>特に 11・12 月の入荷量が少なかったことから、前半の価格は平年を上回って推移したものの、暖冬による需要の伸悩みや 1 月以降の入荷量の回復により、12 月下旬以降、平年を下回る状況が続いたため、<u>全体としては平年を下回った</u>。（卸及び生産出荷団体からの聴取、10～2月中旬の東京都中央卸売市場卸売価格の平年比：97）</p>	

注 1) 「前回委員会での見通し」については、前回委員会における事務局資料、生産出荷団体資料及び委員意見等をもとに作成。

注 2) 「実績」については、「東京都および大阪市中心卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1)

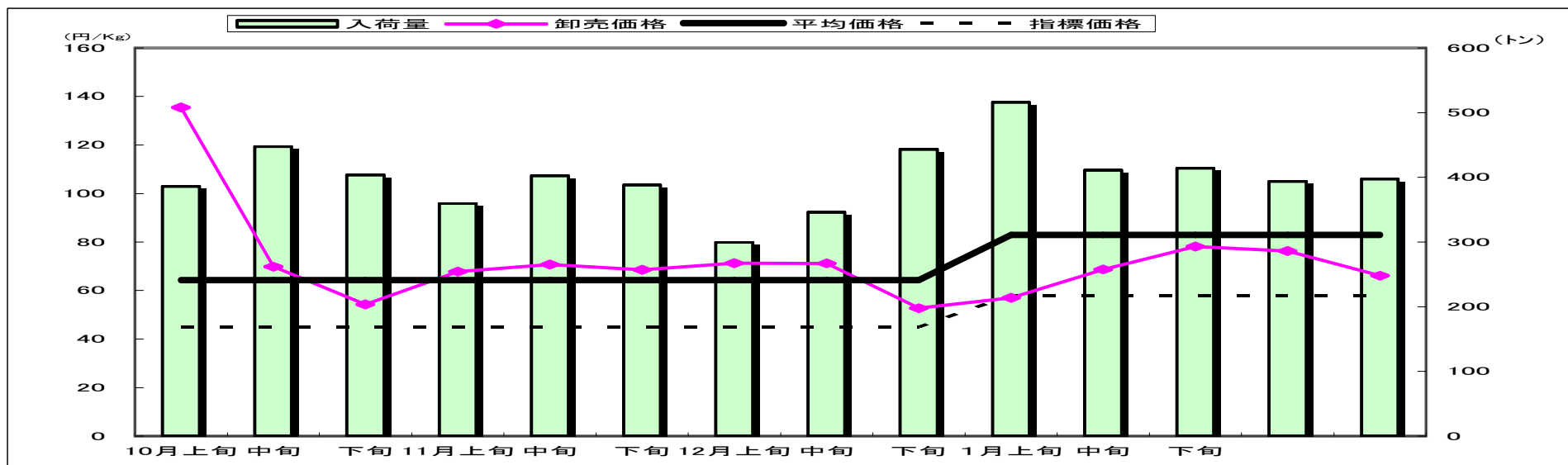
○20年産秋冬だいこんの入荷量と価格の平年比（平年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	109	106	117	89	106	90	64	73	73	128	94	105	98	112	—	96
価格	144	81	68	102	130	126	147	121	87	73	93	103	84	71	—	97

(注) 平年とは、平成15～19年の5か年の平均をいう。

(参考2)

○20年産秋冬だいこんの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場、平均価格は過去9か年。入荷量は各旬における平均日量）



3. 前回の委員会（平成 20 年 10 月 21 日）で示した秋冬はくさいの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会での見通し	実績（2月中旬時点）	備考
秋冬はくさい （10月～3月）	<p>【事務局資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 供給計画：対前年比 102（10～12月） ：対前年比 101（1～3月） 主産地における8月中下旬の天候不良による定植遅れにより、<u>11月以降に出荷が集中する可能性</u>。 長期天気予報により、<u>生育が前進化する可能性</u>。 <p>【生産出荷団体資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>生育状況</u>は、8月中旬以降の天候不良による影響が懸念されるが、10月以降の気温低下により病害の拡大はなく、<u>概ね順調</u>。 <u>出荷量は価格により変動</u>すると予想。 <p>【委員コメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 8月中旬以降の降雨の影響で定植時期が遅れたことによる<u>集中出荷が懸念</u>。 <u>価格は、11月に出荷が集中することによる低落の可能性</u>。 	<p>（入荷量）</p> <p>主産地（関東）における夏の局地的豪雨による定植の遅れ及び11月の低温に伴う生育の停滞により、特に12・1月の入荷量が平年（過去5か年平均をいう。以下同じ。）を下回って推移したことから、<u>全体としては平年を下回った</u>。（卸及び生産出荷団体からの聴取、10～2月中旬の東京都中央卸売市場入荷量の平年比：95）</p> <p>（価格）</p> <p>11月の低温による需要の高まり受け、価格は早くから堅調となり、その後の暖冬による需要の伸縮はあったものの、生育の遅れから例年出荷のピークを迎える12・1月の入荷量が少なかったことから、価格は約3カ月間平年を上回って推移したことにより、<u>全体としては平年を上回った</u>。（卸及び生産出荷団体からの聴取、10～2月中旬の東京都中央卸売市場卸売価格の平年比：106）</p>	

注1) 「前回委員会での見通し」については、前回委員会における事務局資料、生産出荷団体資料及び委員意見等をもとに作成。

注2) 「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1)

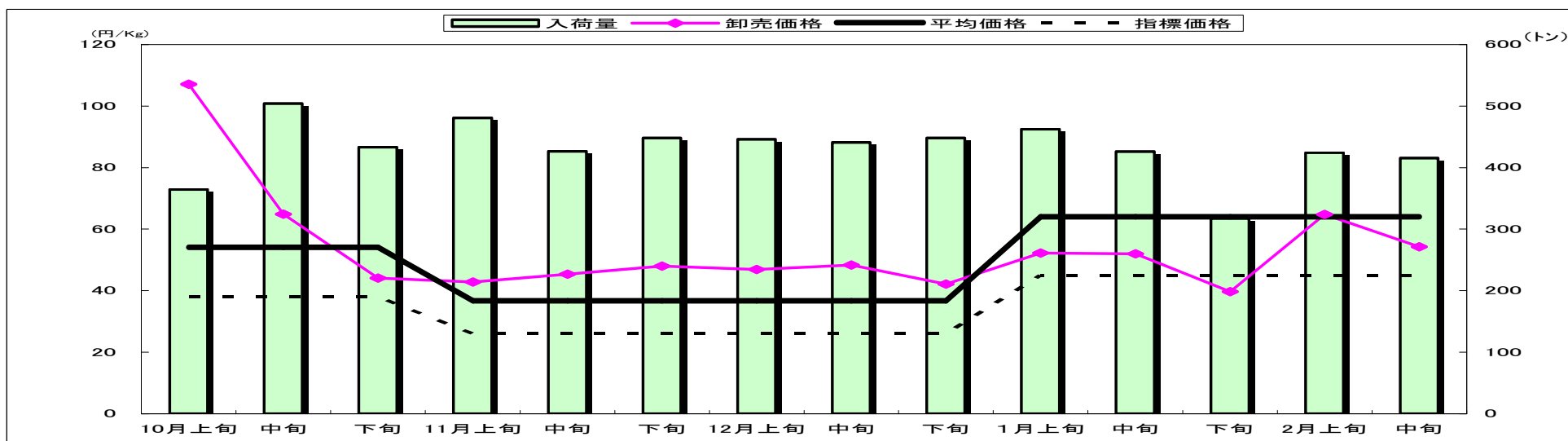
○20年産秋冬はくさいの入荷量と価格の平年比（平年を100とした場合の指数、東京都中央卸売市場）

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
入荷量	109	106	117	101	102	98	77	83	73	121	92	97	98	118	—	95
価格	151	100	73	86	118	127	134	134	109	108	113	129	125	89	—	106

(注) 平年とは、平成15～19年の5か年の平均をいう。

(参考2)

○20年産秋冬はくさいの旬別卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場、平均価格は過去9か年。入荷量は各旬における平均日量）



3. 総括

入荷量（供給）に関しては、共通して、夏場の豪雨による影響などにより、平年を下回ることとなった。

価格に関しては、

- ・ キャベツは、最も需要の低調な時期でありながらも、極端な入荷量の低さが平年を上回る結果をもたらした。
- ・ だいこんは、暖冬の影響による需要の伸悩みなどにより、平年を下回ることとなった。
- ・ はくさいは、最も需要のある12・1月の入荷が少なかったことなどから、平年を上回ることとなった。

このように、価格面ではだいこんを除き、平年を上回る結果となったが、これは予想以上に入荷量が少なかったことが最大の要因と考えられるものであって、需要自体は暖冬の影響もあり期待以上に伸びなかったのではないかとの見方もあるため（主要卸）、例えば、野菜の販売ルートの開発（仲卸業者と連携したレシピ付きネット通販）などを通じた需要の掘起こしにより、特に消費者の在宅時間の長い冬場は最大のチャンスであることから、仮に暖冬であっても野菜の消費の促進につながる方策を積極的に考えていく必要がある。